



例えば「文化」と

宮川雅子さん（興野三区、四十二歳）はダンスがとてもお好き。社交ダンスを始めてまだ2年ですが、毎週水曜日の夜はウキウキします。ストレスや運動不足の解消に役立ちます。それ以上の魅力は木曜会のみならずと会えることかしら。人と人との輪が広がって、

文化的な形になつてほしいです。そろそろ日常生活に余裕が出てきたのでは。

今春、水墨画教室に入られた樋口角平さん（興野二区）は七十歳、友達に誘われるままに始めてみました。「まだまだ、よくわかりませんが、仕事一筋だったわたしの

文化の証

これから作っていきたいんです。時間をつぶすというよりは、自分のために生かしていきたいですね。ようやくこれからは人生と考えています。

小幡知子さん（寺地本村）は3B体操や書道を始めました。「北部地区公民館が出来、講座や催しが始まって、

文化の場

が持てたと思います。もつと使うようにすればいいと思います。越えてきて七年ですが、ここを利用するようになって初めて黒埼町が身近になりましたね。婦人の講習会を開きたいです。

1986
6
No.273

くるさき

町は

--	--	--	--

生きている
広報

彫つてみる。



◆ご覧ください◆
特集/社会教育調査
なにはともあれ文化の町に……②～⑥
宮田教育長に聞く⑦
社会教育施設案内⑧
町の動き/地域行政懇談会始まる……⑩
街かど/版画・西原義樹さん……⑫
人/青木博さん……⑬

最近、ワープロを始めた高橋孝一さん（七区、三十二歳）は一歩の会（手話）の会長で自動車試験場にお勤めです。「仕事で身体障害者のかたに免許取得の相談に乗っています。手話やワープロもコミュニケーションの一つ。互いに通じあえば

文化は平等

に伝わると思っています。文化に身障者と健常者の差はありません。

西潟たみ子さん（蓮方団地・団体職員）は黒埼絵画クラブの創立メンバーの一人です。もう二十年近いんです。クラブはわたしたちだけのものではなくて、黒埼町の

文化のために

あると思います。文化は何か、遊びかもしれません。でも、遊びから何か生まれてきますし、遊びがない人生なんてありえないでしょう。

オリジナルのビデオ映画を撮りたいなあど鷲尾裕之君（黒鳥四）。黒埼高校の視聴覚委員。三年生に進級してビデオクラブを作りました。

文化とは？

聞かれても困るんですけど、その時起きたこと、やったことが文化かな。僕はビデオとかバイクとか機械が好きだから、機械も一つの文化と思う。